私たちに
任せなさい

そろそろ結論を出す「高速炉開発会議」
その第1回目の議事録より(参考資料①)
メンバーの意気込みをうかがいましょう。

世耕経済産業大臣

エネルギーの安定的かつ低廉な供給と
気候変動問題への対応を同時に実現していくためには、
やはり安全最優先で取り組むことを前提に
原子力はどうしても欠かすことのできないエネルギー
ということになります。
そして、原子力の利用を続ける以上は、
核燃料サイクルとも正面から向き合わなければなりません。
高レベルの放射性廃棄物の問題、
資源の有効利用、技術・人材の向上や世界の安全への貢献
といった点に思いをいたせば、
核燃料サイクルとその実現のための高速炉開発もまた
必要不可欠であります。

松野文部科学大臣

我が国が今後も引き続き
核燃料サイクル政策を継続し、
高速炉の実用化を確実に推進していく上で
どのような道筋がより合理的なものであるのか、
この高速炉開発会議においてご議論をいただき、
特に実証炉の実現に向けた道筋について、
しっかりと具体化していただきたい

参考資料
①経産省HP　「高速炉開発会議」平成28年10月7日　第1回議事録
http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/energy_environment.html#fr
②経産省HP　高速炉開発会議（第1回会合）配布資料1「高速炉開発会議の設置について」
http://www.meti.go.jp/committee/kenkyukai/energy/fr/001_haifu.html

児玉原子力研究開発機構理事長

高速炉サイクル技術は、エネルギーセキュリティ、
放射性廃棄物の減容化・有害度低減、
さらには核不拡散関連技術の観点から重要なものであります。

勝野電気事業連合会会長

資源の有効活用及び高レベル放射性廃棄物の減容
という観点から、
高速炉開発というものは
電力の安定供給を担う私ども電気事業者にとっても
大変意義のあるものと考えております。

将来を見据えて、
そして関係する皆様方と意識をしっかりとそろえて、
この場での検討に主体的に参画してまいりたい

宮永三菱重工業代表取締役社長

高速炉は重要な国家基幹技術であり、
国際競争も激しくなる中で、
我が国として必ず保持し続けるべき大事な基幹技術体系
だと思っております。

国、電気事業者、JAEAの皆様とも
認識をしっかりと共有して、ともに力を合わせ、
高速炉サイクルを可能とする技術開発の実現を
図ってまいりたいと思っております。

「高速炉開発会議の設置について」(参考資料②)
目的(2)より

**会議は、今後の高速炉開発の基本的な方針と具体的な取組を検討し、
関係者に共有することで、
我が国における高速炉開発を推進するものとする**

最後に一言

会議なんかしなくても、出席者全員の認識は共有できてます。。。
「核燃サイクル推進」という認識が共有されている出席者だけが集まって、
議事録は出すものの、会議のほとんどを非公開にして、
「核燃サイクル推進」である経産省の役人が出す資料を「はいはい」と承認していく。

ここまで露骨に「推進」という方針を出しても国民は騒がない、と役人が考えているということだと思います。
事実、国民の大半は関心を持っていなさそうです。
こりゃ、原発新増設を言い始めるのも時間の問題。2017年はエネルギー基本計画も新しくなるはずです。
2017年、こっちも気合い入れないと。